

品番

BABOON

保証書別添付



このたびは、MOBI PARK の電動アシスト自転車をご購入いただき、誠にありがとうございます。

- 取扱説明書をよくお読みの上、正しく安全にお使いください。
- ご使用前に「安全上の注意」を必ずお読みください。
- 保証書は「お買い上げ日・販売店名」などの記入を確かめ、取扱説明書とともに大切に保管してください。

※本説明書に記載されている図は、あくまで説明および操作手順の参考用イメージであり、製品の検査基準を示すものではありません。

※当社は製品性能の向上を目的として、予告なく仕様を変更する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

電動アシスト自転車とは

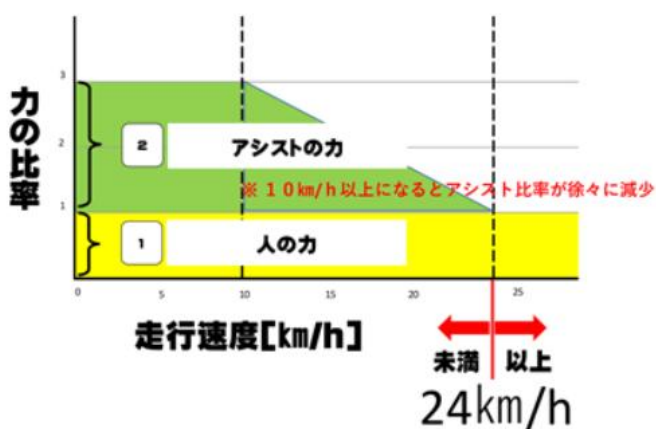
電動アシスト自転車は、ペダルを漕ぐ力を電動モーターが補助する自転車です。

道路交通法施行規則により、アシスト比率や制御の仕組みが厳密に定められており、以下の基準を満たした場合にのみ「自転車」として扱われます。

● アシスト比率の基準(要点)

1. モーターは“補助”に限ること(単独走行不可)
2. アシスト比率が法令の上限以内であること
 - ・10km/h 未満: 人力の 2 倍まで
 - ・10~24km/h: 法令の計算式による上限内
 - ・24km/h 以上: アシスト作動なし
3. 基準を超える性能に容易に改造できない構造であること

※基準を超えると、自転車ではなく「ペダル付き電動バイク」に分類されます。



電動アシスト自転車の購入時のポイント

- 日本基準に適合した電動アシスト自転車には、**「型式認定 TS マーク」**が貼付されています。
- TS マークは、国家公安委員会が基準適合車として認めた証です。
- 安全性や基準適合を確認するため、TS マーク付きモデルを推奨します。

株式会社〇〇〇〇	
	型 式
	〇〇〇〇〇〇
駆動補助機付自転車 型式認定番号	交N〇〇-〇〇
普通自転車 型式認定番号	交A〇〇-〇〇

型式認定 TS マーク(イメージ)

駆動補助機付自転車(電動アシスト自転車)の型式認定制度について

型式認定制度とは

電動アシスト自転車(駆動補助機付自転車)の安全な利用を確保し、事故防止を図るため、警察(国家公安委員会)が基準に適合した車種を認定する制度です。型式認定を受けた電動アシスト自転車は、道路交通法で定められた性能基準を満たしており、車体に「TS マーク」を表示することができます。

- TS マークが付いているメリット
 - ・ 法律で定められたアシスト比率の基準に適合
 - ・ 安全性に関する基準をクリア
 - ・ 自転車として道路を走行できる

安全な利用のため、TS マーク貼付車のご使用を推奨します。

型式認定制度の目的

型式認定制度は、次の目的で運用されています。

- ・ 利用者が「基準を満たした安全な製品」を選びやすくする
- ・ 交通安全対策を促進する
- ・ 製造・販売事業者が法令基準を遵守できるようにする

国家公安委員会が、製造・販売事業者から申請された車両を審査し、基準適合が認められた車両に型式認定番号と TS マークが付与されます。

駆動補助機付自転車(電動アシスト自転車)の認定基準

電動アシスト自転車は、以下の基準に適合している必要があります。

- ① アシスト比率等の原動機基準に適合していること
 - ・ 速度 10km/h 未満: 人力の 2 倍まで
 - ・ 速度 10~24km/h: 法令の計算式に基づく比率以内
 - ・ 24km/h 以上: アシストは作動しない
- ② アシスト機能が円滑に働き、安全な運転を妨げないこと
 - ・ ペダルを踏んだ時のアシストが自然で、急発進にならない
 - ・ 操作時の挙動が安定している
- ③ 円滑に停止できる性能を有すること
 - ・ ブレーキ性能が所定の基準に適合していること

それ、
ペダルが
ついてる

バイク

かも!

要注意!



Caution!

こんな車両は自転車のふりをしたバイクです!

Caution 01

滑がなくても
自動で
走行する

Caution 02

時速24km
になっても
アシストを続ける

Caution 03

スマホのアプリ
などを使用して
法定のアシスト基準を
超過する設定ができる

Caution 04

簡単にスロットルを
取り付ける等の
改造ができる

Caution 05

乗車した状態でも
押し歩き補助機能が
作動する

*バイク:「一般原動機付自転車」「軽便自動二輪車」など

ペダル付き電動バイクとは

ペダル付き電動バイクは、原動機(モーター)だけで走行できる構造の車両です。
一般に「モペット」「フル電動自転車」と呼ばれますが、法律上はバイクと扱われます。

以下に該当すると電動バイク扱い

- ・モーターのみで走行可能な構造
 - ・電動アシスト自転車の基準(アシスト比率)を超える
 - ・基準に適合しない性能に容易に改造できる構造
- これらはすべて“自転車”ではなく“バイク”扱いになります。

ペダル付き電動バイクを運転するために必要なもの

ペダルだけで走っても「バイクの運転」と扱われるため、

以下すべてが必須条件です。

1. ナンバープレートの取得・表示
2. 運転免許の保有(原付・普通二輪など)
3. 保安基準への適合(法定装備)
 - ・ 前照灯、制動灯、尾灯、番号灯
 - ・ 後写鏡、方向指示器、警音器
 - ・ 前後ブレーキ など
4. 自賠責保険への加入
5. ヘルメット着用義務

※これらを満たさずに公道を走行すると、道路交通法違反となります。

また、MOBIPARK オーナーの皆さまには、ご納車より2週間(仮)以内にオーナー登録を済ませていただくようお願いしております。お客さまが車体の持ち主であることの証明や、国内正規保証の対象となるために必要な大切な登録です。登録用の QR コードは、以下フォームより、ご対応のほどよろしくお願いいたします。

QRコード

車体番号の確認

ハンドルバー下箇所フレームに、車両の車体番号が刻印されています。

車両の紛失や盗難に備えて、記載の番号をこちらにお控えください。

盗難や紛失の場合には、保険会社や最寄りの警察署に、本車体番号をお伝えください。

所有者であることを証明するために、ご購入時のレシート、及び販売証明書/保証書を大切に保管いただきますようお願いいたします。

氏名

車体番号

モデル・カラー

ご購入日



目次

電動アシスト自転車とは	1
駆動補助機付自転車(電動アシスト自転車)の型式認定制度について	2
それ、ペダルがついてるバイクかも	3
ペダル付き電動バイクとは	4
ユーザー登録 車体番号の確認	5
目次	6
自転車の正しい乗り方	7
自転車安全利用五則	8~9
禁止事項	10
自転車の交通ルール	11
自転車に乗るときは必ずヘルメットをかぶりましょう	12
防犯登録	13
乗車前の点検.....安全上の注意事項...してはいけない乗り方	14
安全上の注意事項 してはいけない乗り方	15~16
お手入れについて..保管について	16
各部の名称(自転車本体)	17
各部の名称(ハンドルバーセット)	18
液晶ディスプレイ	19
機能説明	20
メニュー設定モード メインメニュー Display(表示設定)	21
E-bike(車両設定)	22
Information(製品情報)	23
エラーコード一覧表	24
操作方法	25
バッテリー..取扱い..充電方法	26~27
ブレーキライト ... サドルを調整する ... ハンドルバーを調整する	28
ギアを操作する ... 乗る前にチェックする項目	29
メンテナンス	30
仕様一覧	31
トラブルシューティング(故障かな?と思ったら)	32
定期点検チェックシート	33
保証	34~35



警視庁

自転車^{の正しい乗り方}



自転車 安全利用 五則

- ① 車道が原則、左側を通行
歩道は例外、歩行者を優先
- ② 交差点では信号と一時停止を守って、安全確認
- ③ 夜間はライトを点灯
- ④ 飲酒運転は禁止
- ⑤ ヘルメットを着用

自転車 安全利用 五則

1 車道が原則、左側を通行 歩道は例外、歩行者を優先

車道が原則、ただし、以下の場合は歩道を通行することができます



歩行者優先

「特例特定小型原動機付自転車・普通自転車の歩道通行可」の標識

- 歩道に「特例特定小型原動機付自転車・普通自転車の歩道通行可」の標識、標示があるとき
- 13歳未満の子どもや70歳以上の高齢者や身体の不自由な人が普通自転車を運転しているとき
- 道路工事や連続した駐車車両などのために車道の左側部分を通行することが困難な場合や、著しく自動車などの交通量が多く、かつ車道の幅が狭いなどのために追越しをしようとする自動車などの接触事故の危険がある場合など、普通自転車の通行の安全を確保するためやむを得ないと認められるとき〔道路交通法第63条の4、道路交通法施行令第26条〕



左側を通行

道路（車道）の中央から左側部分の左側端に寄って通行しなければなりません。

〔道路交通法第17条〕

罰則 3ヶ月以下の拘禁刑又は5万円以下の罰金

〔道路交通法第18条1項〕

自転車道がある場合は、工事などの場合を除き、自転車道を通行しなければなりません。

〔道路交通法第63条の3〕

罰則 2万円以下の罰金又は料料



歩道は例外、歩行者を優先

自転車は、歩道の中央から車道寄りの部分を徐行しなければならず、歩行者の通行を妨げるときは、一時停止しなければなりません。

〔道路交通法第63条の4〕

罰則 2万円以下の罰金又は料料



2 交差点では信号と一時停止を守って、安全確認

信号遵守

対面する信号機に必ず従わなければなりません。
〔道路交通法第7条、道路交通法施行令第2条〕



罰則 3ヶ月以下の拘禁刑又は5万円以下の罰金

一時停止

一時停止標識がある場所では、必ず止まって安全確認をしましょう。
〔道路交通法第43条〕



罰則 3ヶ月以下の拘禁刑又は5万円以下の罰金

3 夜間はライトを点灯

夜間は必ず前照灯をつけましょう。
〔道路交通法第52条、道路交通法施行令第18条、東京都道路交通規則第9条〕

罰則 5万円以下の罰金



4 飲酒運転は禁止

酒気を帯びて自転車を運転してはいけません。
〔道路交通法第65条〕

罰則 5年以下の拘禁刑又は100万円以下の罰金（酒酔い運転の場合）
3年以下の拘禁刑又は50万円以下の罰金（酒気帯び運転の場合）



5 ヘルメットを着用

自転車の運転者は、乗車用ヘルメットをかぶるよう努めなければなりません。
〔道路交通法第63条の11第1項〕

自転車の運転者は、幼児等を自転車に同乗させるときは、乗車用ヘルメットをかぶらせるよう努めなければなりません。
〔道路交通法第63条の11第2項〕

児童等の保護者は、児童等が自転車を運転するときは、乗車用ヘルメットをかぶらせるよう努めなければなりません。
〔道路交通法第63条の11第3項〕



禁止事項

ルールを守って安全運転を心掛けましょう！

しゃ断踏切立入り

踏切の遮断機が閉じようとしていたり、警報機が警報している間は、踏切に入ってはいけません。

[道路交通法第33条]

罰則 3ヶ月以下の拘禁刑又は5万円以下の罰金



携帯電話使用運転

自転車を運転しながら携帯電話を手で持って通話したり、メール等をしてはいけません。

[道路交通法第71条第5号の5]

罰則 6ヶ月以下の拘禁刑又は10万円以下の罰金



イヤホン等使用運転

イヤホン等を使用して音楽を聴くなど、運転に必要な周りの音や声が聞こえない状態で自転車を運転してはいけません。

[道路交通法第71条、東京都道路交通規則第8条]

罰則 5万円以下の罰金



傘差し運転

傘を差す、物を持つなどの行為で視野を妨げたり、安定を失うような方法で自転車を運転してはいけません。

[道路交通法第71条、東京都道路交通規則第8条]

罰則 5万円以下の罰金



ブレーキ不良(備えていない)自転車運転

ブレーキは前車輪と後車輪ともに備えていなければなりません。

[道路交通法第63条の9、道路交通法施行規則第9条の3]

罰則 5万円以下の罰金



並進走行

他の自転車と並んで通行することはできません。

[道路交通法第19条]

罰則 2万円以下の罰金又は科料



!! 子どもを自転車に同乗させる時は乗せ方のルールを守りましょう

乗車人数

原則として運転者以外の人を乗せることができません。ただし、次の場合は幼児を同乗させることができます。

[道路交通法第57条、東京都道路交通規則第10条]

1 一般の自転車

16歳以上の運転者は、幼児用座席を設けた自転車に小学校就学の始期に達するまでの者を一人に限り乗車させることができます。

※運転者はさらに幼児(6歳未満)1人を子守バンド等で背負って運転できます。



2 幼児2人同乗用自転車

16歳以上の運転者が、小学校就学の始期に達するまでの者2人を乗せる場合には、「幼児2人同乗用自転車」(運転者のための乗車装置及び幼児用座席を設けるために必要な特別の構造又は装置を有する自転車)を使わなければなりません。「幼児2人同乗用自転車」ではない自転車の前後には、幼児用座席を取り付けて乗車させることはできません。

※座席に2人を同乗させた場合には、運転者は幼児を背負って運転することはできません。



自転車の 交通 ルール

👉 交差点で右折するとき

できるだけ道路の左端に寄って交差点の向こう側までまっすぐ進み、十分速度をおとして曲がらなければなりません。

[道路交通法第34条]

二段階右折

信号機のある交差点を右折する場合は、青信号で交差点の向こう側までまっすぐ進み、その地点で止まって右に向きを変え、前方の信号が青になってから進むようにしなければなりません。



👉 道路の横断

自転車横断帯

道路を横断しようとするときは、その付近に自転車横断帯がある場合は、それによって横断しなければなりません。交差点に自転車横断帯があるときは、この横断帯を進行しなければなりません。

[道路交通法第63条の6、第63条の7]



横断歩道

(自転車横断帯が設置されていない)

横断歩道は歩行者のための場所ですので、横断歩道上に歩行者がいないなど歩行者の通行を妨げるおそれのない場合は、自転車に乗ったまま通行できますが、歩行者の通行を妨げるおそれのある場合は、自転車から降りて押して横断するようにしてください。

[交通の方法に関する教則]



👉 自転車が従うべき信号

信号機

信号は、対面する信号機に従わなければなりません。

[道路交通法第7条、道路交通法施行令第2条]

「歩行者・自転車専用」と表示されている歩行者用信号機がある場合は、車道を通行する自転車も歩行者用信号機に従わなければなりません。

[道路交通法施行令第2条]



「歩行者・自転車専用」の表示がない場合
※ただし、歩道を走っている場合は歩行者用信号を見る。



「歩行者・自転車専用」と表示されている場合

自転車に乗るときは
必ずヘルメットを
かぶりましょう



※写真は一例です。ヘルメットはメーカーにより種類・色・型・サイズが様々です。お近くの販売店でぜひお手にとり見てください。

自転車用ヘルメットは、安全性を示す
マークの付いたものを使いましょう！

<マークの例>



JCF公認・推奨マーク
公益財団法人日本自転車競技連盟

SGマーク
一般財団法人製品安全協会



自転車乗用中死者の損傷主部位比較
(東京都内 令和2年～令和6年中)



ヘルメット着用状況別の致死率
(東京都内 令和2年～令和6年中)

👉 自転車利用者は、対人賠償保険等への加入が義務です

東京都では、自転車利用中の事故により、他人にケガをさせた場合などの損害を賠償できる保険等への加入が義務となっています。

※東京都自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例

条例に関して詳しくは

東京都 自転車条例

検索

👉 自転車の走行位置を示す道路標示・マーク



「普通自転車専用通行帯」

設置されている場所は自転車専用通行帯を走行してください！
相互通行はできません。道路左側の設置部分を走りましょう！



「自転車ナビマーク」

車道を通行する自転車は自転車ナビマークに沿って車道の左側を通行！逆行は×！



「自転車ナビライン」

車道を通行する自転車は自転車ナビラインのある交差点では、自転車ナビラインに従って通行！右折する際は二段階で！

👉 自転車運転者講習制度



危険行為を繰り返す

3年以内に法律で定められた危険行為（信号無視等の16類型）を2回以上繰り返す。

公安委員会からの受講命令

公安委員会から、該当者に対し、自転車運転者講習を受けさせるための受講命令書が交付される。

自転車運転者講習の受講

自転車運転者講習の受講（3時間）
受講料金6,150円。命令に従わない場合5万円以下の罰金

防犯登録

防犯登録はお買い上げの際に必ず行ってください。

※制度の意義

防犯登録は「自転車の安全利用の促進および自転車駐輪場の整備に関する法律第12条3項」により義務づけられています。

自転車盗難や放置による生活への影響を改善するために制定されました。

※登録のしかた

防犯登録はお買い上げの販売店で行います。防犯登録は有料となります。

※自転車が盗難にあった場合

各都道府県の警察署に盗難届けを出してください。この時に防犯登録番号が必要となります。

自転車が見つかりにくくなるため、防犯登録カードはなくさず保管してください。

乗車前点検

走り出す前に必ず「乗車前点検」を行ってください。不明な点は乗車前に直接店舗やカスタマーセンターへお問い合わせください。



前ブレーキをかけて車体を前後に揺らすと、フォークや前輪などのガタつきを確認できます。



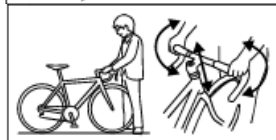
後輪を少し持ち上げて落とすと、チェーンが動く音で後輪や変速機のガタつきを確認できます。



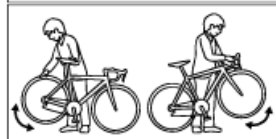
ペダルを横に押すと、クランクやペダルのガタつきを感触で確認できます。



タイヤは親指で押しても凹まない程度の空気圧が必要です。



ハンドルやブレーキレバーを強くゆすって動く場合は、締め付けトルクが不足しています。



前後輪を空転させると、車輪の振れやタイヤ・ブレーキの状態を確認できます。



ブレーキが効くか、Bのすきまが1/2～1/3になるまでに確認しましょう。

いずれも不具合があった時は、使用せずに、すぐに販売店で点検を受けてください。

警告 転倒や衝突事故を防ぐために

安全の為に

- すその広い服や長いマフラー、滑りやすい靴やヒールは車輪やチェーンに巻き込まれたり、足が外れて転倒する恐れがあるため避けるか、裾をしっかり留めてください。
- 夜間は前照灯を点灯し、対向車が眩しくない角度で取り付けましょう。バッテリー残量にも注意し、無灯火走行は法律で禁止されています。
- 乗車前に取扱説明書をよく読み、必ず点検を行い、不明点は販売店に確認してください。

注意 転倒や衝突事故を防ぐために

安全上

- 発進する前に、必ずサドルにまたがって乗車してください。
転倒や事故の危険があるため、けんけん乗りはしないでください。
*けんけん乗り(片足で蹴って助走し乗る方法)は、転倒や事故の恐れがあるため禁止です。
- 発進時は低アシストモードで、ペダルを強く踏みすぎないようにしましょう。
- 車両は、一般道用のため、ジャンプや悪路走行は避けてください。
- 押して歩くときは、必ず電源をオフにしてください。
- 信号待ちなど停車中はペダルに足をのせず、前後ブレーキを確実にかけてください。不用意なアシストで転倒や事故の恐れがあります。
- 片側のブレーキ操作はスリップや転倒の原因になるため避け、必ず前後両方のブレーキをかけてください。
- カーブで曲がる側のペダルを下げると地面に接触し転倒の恐れがあるため避けてください。不具合があれば使用せず、すぐ販売店で点検を受けてください。
- 急なハンドル操作やブレーキはスリップや転倒の原因になるため避けてください。
- 歩道の段差や凹凸の激しい場所は車体や車輪が損傷し転倒の恐れがあるため、乗らずに押して歩いてください。
- 積雪・凍結路面や濡れたマンホール、点字ブロック、ぬかるみなど滑りやすい場所では転倒の恐れがあるため乗らずに押して歩いてください。
- 雨天時は制動距離が長くなるため、スピードを控えて安全に走行してください。

安全停止距離

濡れた路面では停止距離が晴天時の約 2 倍になるため、晴天時は 7~8m 手前、雨天時は 15m 手前からブレーキをかけるようにしましょう。

- アクロバット乗りや急ハンドル・急旋回は転倒や怪我の原因になるため、行わないでください。
- 体調不良や風邪薬服用時は身体能力が低下し転倒や事故の恐れがあるため、乗車を控えてください。
- 自転車や踏み台など走行以外の目的で使わないでください。転倒して怪我の恐れがあります。
- ハンドルや手に荷物・傘を掛けたりペットをつなぐと、車輪に巻き込まれたりバランスを崩して転倒する恐れがあります。
- 傘やステッキ、釣竿などを車体に差し込んだり、車輪近くに吊り下げて走ると、巻き込みや接触で事故や転倒の恐れがあるためやめてください。

警告

- 積載条件を超える荷物は積まないでください。バランスを崩して転倒の恐れがあります。荷物は純正オプションキャリア対応車種のみ積み、制限重量や最大サイズを必ず守ってください。
最大でも下記サイズを超える物は積まないでください。

サイズ 高さ:30cm 以下

幅:キャリアの幅、長さプラス 10cm 以下

規定を超えた積載は自転車の安定性を損ない、転倒や事故の原因となる恐れがあります。

- ブレーキの制動面やリム、タイヤに注油するとブレーキが効かなくなり、衝突や転倒の恐れがあります。
- 車輪やギア、チェーンなどの回転部分に手足や物を近づけると巻き込まれて怪我をする恐れがあります。
- 突起物の装着は歩行者などに危害を及ぼす恐れがあるため、しないでください。
- 分解や改造は部品の破損や脱落による転倒の恐れがあるため、しないでください。

お手入れについて

- ホコリや汚れは乾いた布やブラシで落とし、汚れがひどい場合は水洗いして乾かしてください。
※洗浄機には高圧洗浄機を使用しないでください。水圧により、故障の原因となる恐れがあります。
- 雨天走行後などでリムに泥が付いた場合は、油分のない布で拭き取ってください。アルミリムは傷つきやすく、泥は削れや汚れの原因になります。
- 湿気や排気ガスなどの影響でさびやすい場所では、お手入れの回数を増やしてください。

保管について

- 盗難防止のため必ずカギをかけ、スペアキーはなくさないよう保管してください。
- 雨の当たらない乾燥した場所に保管し、屋外ではサイクルカバーを使用してください。風雨にさらされるとサビや劣化、汚れが早まります。
- 長期間放置する場合は、タイヤの変形を防ぐため空気を入れて保管することをおすすめします。
- 長期間使用しない場合は、バッテリーを70~80%に充電し、3ヶ月に一度は充電してください。
- 寒冷地では部品の凍結を防ぐため、暖かい場所で保管してください。

駐輪について

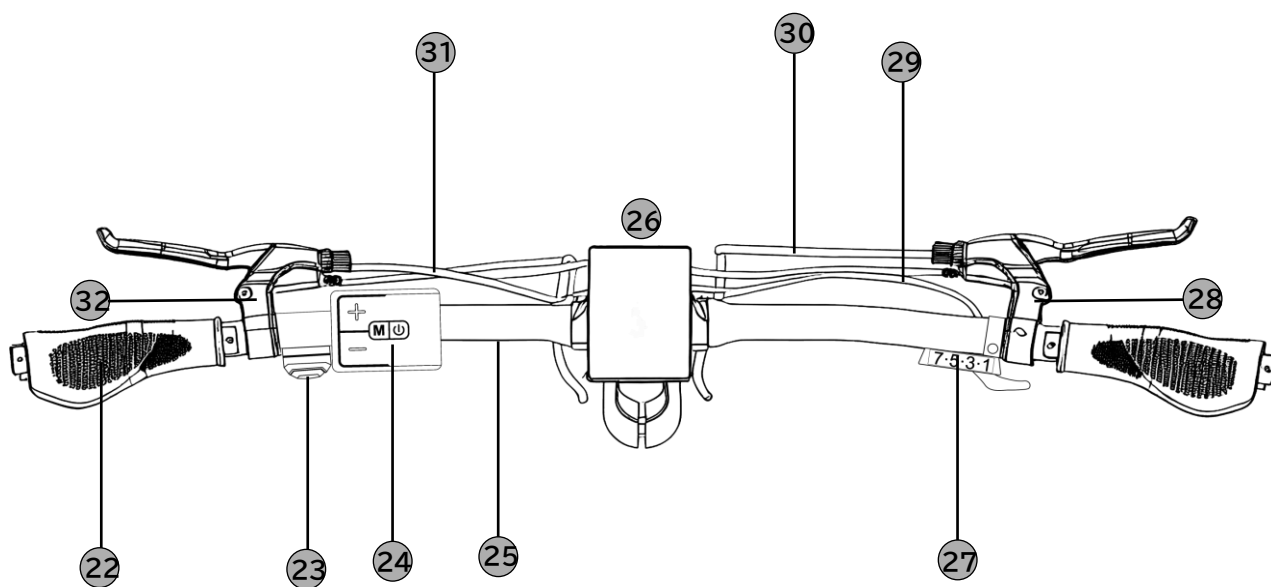
- 傾斜があり不安定な場所では、自転車が倒れる危険があります。
- 駐輪時は通行の妨げにならない場所を選び、必ず施錠してください。
- 駐輪場がある場合は、必ず駐輪場を利用してください。
- 風の強い日は自転車が倒れる恐れがあるため注意してください。
- 公の場所には、長時間自転車を放置しないでください。

各部の名称

- | | |
|----------------|-------------------|
| ① サドル | ⑫ 充電口(裏面) |
| ② リアサスペンション | ⑬ バッテリーキーロック |
| ③ ディスクブレーキローター | ⑭ フロントサスペンションフォーク |
| ④ タイヤ | ⑮ ディスクブレーキキャリパー |
| ⑤ キャストホイール | ⑯ フロントハブ |
| ⑥ ハブモーター | ⑰ リム |
| ⑦ スプロケット | ⑱ バッテリー |
| ⑧ リアディレイラー | ⑲ ブレーキライト |
| ⑨ チェーン | ⑳ カーゴラック |
| ⑩ ペダル | ㉑ ヘッドライト |
| ⑪ クランクセット | |



各部の名称(ハンドルバーセット)

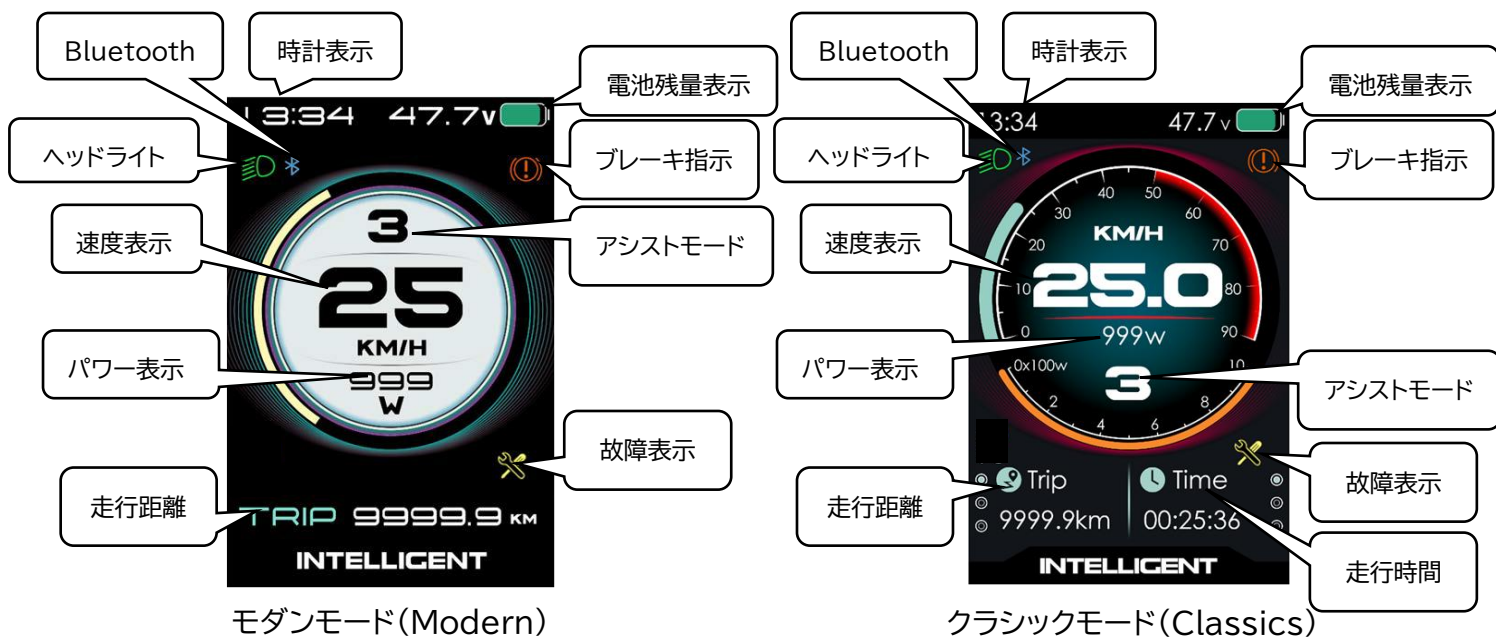


- ② グリップ
- ③ ライト・ブザースイッチ
- ④ コントローラースイッチ
- ⑤ ハンドルバー
- ⑥ 液晶ディスプレイ
- ⑦ 変速ギア
- ⑧ フロントブレーキレバー
- ⑨ 変速アウターケーブル
- ⑩ フロントブレーキアウターケーブル
- ⑪ リアブレーキアウターケーブル
- ⑫ リアブレーキレバー

液晶ディスプレイ

液晶表示説明

メニュー設定モードでディスプレイのデザインを変更可能となります。詳細は P20をご参照ください。



速度表示	速度値の表示, Km/h (キロ表示)、MPH(マイル表示)
電池残量表示	電圧(V)表示か、パーセンテージ(%)表示かの選択可能 ※通常はパーセンテージ表示
ヘッドライト表示	ディスプレイにはライト ON 時のマーク  が表示される仕様がありますが、本製品ではこのライトマーク機能には対応していません。 本製品のライトは、ディスプレイではなく、別途搭載されているライトスイッチで操作します。
ブレーキ表示	ブレーキレバーを握ると表示されるマーク 
アシストモード表示	アシストモード表示, 0~3で、0 はアシストなし, 1~3がアシストモード ※  マークのウォークモードは、本製品は未対応。
故障表示	故障時にエラーマーク  表示がある。
モード表示 (モダンモード)	TRIP(区間走行距離)、TIME(時計)、ODO(累計距離)、AVG(平均速度)、MAX(最高速度)、RANGE(航続距離) 「M」ボタンで操作可能
モード表示 (クラシックモード)	左画面: TRIP(区間走行距離)、TIME(時計)、ODO(累計距離) 右画面: AVG(平均速度)、MAX(最高速度)、RANGE(航続距離) 「M」ボタンで操作可能
Bluetooth	 :本ディスプレイには Bluetooth アイコンが表示されますが、本製品は Bluetooth 通信機能は搭載されていません。 アイコンは使用できる機能ではありませんのでご注意ください。



Bluetooth/GPS モード

⚠️: ディスプレイの電源を入れた後に電源(⏻)ボタンを押すと Bluetooth/GPS モードを表示されますが、本製品は Bluetooth 及び GPS 機能、通信機能は搭載されていません。

機能説明


ライト・ブザースイッチ		コントローラースイッチ	
<p>ライトボタン</p> <p>ブザーボタン</p>		<p>+ボタン</p> <p>電源ボタン</p> <p>-ボタン</p> <p>機能ボタン</p>	
ON/OFF	<p>電源(⏻)ボタンを長く押すと、ディスプレイの全画面が表示されます。</p> <p>ディスプレイは電源が入っている状態で、電源(⏻)ボタンを長く押すと、ディスプレイが OFF になります。5分間経過して、走行しない、またはコントローラースイッチを操作しない場合、自動的にパワーオフになります。※設定で変更可能です。詳細は P21 をご参考ください。</p>		
アシストモード選択	<p>「+」「-」のボタンでアシストパワーレベルを変更します。一番低いアシストは1モード、一番高いアシストは3モードとなります。電源を入れた際の通常は1モードとなります。0 はアシストなしです。</p> <p>🚶はウォークモードですが、本製品に対応しておりません。</p>		
モード変更 (モダンモード)	<p>ディスプレイの表示は、「M」ボタンの操作により、以下の順番で切り替わります。</p> <p>TRIP(区間走行距離) ⇒ TIME(時計) ⇒ ODO(累計距離) ⇒ AVG(平均速度) ⇒ MAX(最高速度) ⇒ RANGE(航続距離)</p>		
ヘッドライトの 点灯方法	<p>ライトスイッチ(23🔦)を1回押すと(21)が点灯します。消灯も1回押します。</p>		
メニュー設定方法	<p>車両停止時に「M」ボタンを、ダブルクリックして、メニュー設定画面に入ります。</p>		
走行時間と走行距離のリセット	<p>「+」と「-」ボタンを同時に約1秒長押しすると、リセットされます。</p>		
警告音を鳴らす	<p>ブザースイッチ(23🔊)を押すと警告音が鳴ります。</p>		

メニュー設定モード

電源 ON の状態で、「M」ボタンを 2 回連続で押します。システムはメニュー設定モードに入り、このモードで計器パラメータの設定が可能です。メニュー設定モード中に「+」「-」ボタンで調整する項目を選択し、「M」ボタンを押すと選択できます。設定画面で「M」ボタンを押すと黄枠が赤枠に色が変わり、「+」「-」ボタンで選択後、「M」ボタンを押して設定を保存します。「EXIT」を選択するとメニュー設定モードを終了します。

メインメニュー

下記の項目から各種設定を行うことができます。

Display (表示設定)	ディスプレイの言語、明るさ、自動 OFF、時計、テーマなどを設定します。
E-Bike (車両設定)	タイヤ径、電圧設定、アシストモードに関する車両パラメータを設定します。
Advance (高度な設定)	 : 高度な設定は、専門技術者(サービススタッフ)専用の項目です。お客様が変更することはできません。
Restore Factory (初期設定に戻す)	設定を工場出荷時の状態に戻します。実行すると現在の設定はすべて初期化されます。
Information (製品情報)	製品バージョン、シリアル番号、プロトコル、その他の情報を確認できます。
Exit(終了)	メニュー画面を閉じ、通常表示に戻ります。

Display(表示設定)

メインメニューから Display(表示設定)を選択すると、以下のサブメニューが表示されます。

Language(言語)	表示言語を変更することができます。 選択可能言語: English(英語) / français(フランス語) / DEUTSCH(ドイツ語) / español(スペイン語) / Italiano(イタリア語) / CZECH(チェコ語)
System(システム)	ディスプレイの速度の表示単位を選択できます。 Metric が KM/H(キロ表示)、Imperial が MPH(マイル表示)になります。
Brightness(明るさ)	ディスプレイの明るさを調整します。明るさは複数段階のバー表示で視覚的に確認でき、最も暗い設定から最も明るい設定まで順に調整できます。
Auto Off(自動 OFF)	自動 OFF までの時間は、1~10min(分)の範囲で設定できます。また、設定を「OFF」にすると自動 OFF 機能は無効となり、電源は自動で切れなくなります。
USB port(USB ポート)	USB 出力の ON/OFF を設定します。USB ポートは、ディスプレイ本体の下部・取り付けステー付近に設置されています。
Clock(時計)	ディスプレイに表示される日時を設定できます。 Year(年) / Month(月) / Day(日) / Hour(時) / Minute(分) / Second(秒) 時刻の表示形式は、次の 2 種類から選択できます。 Show-12 hour(12 時間表示) / Show-24 hour(24 時間表示) Hide を選択すると、走行画面で時計を表示しない設定 に切り替わります。
Scenes(画面テーマ)	ディスプレイのデザインテーマを Modern(モダンモード)、Classics(クラシックモード)に切り替えることができます。
Back(戻る)	メインメニューへ戻ります。

E-bike(車両設定)

メインメニューから E-bike(車両設定)を選択すると、以下のサブメニューが表示されます。

<p>Start password (電源オンパスワード)</p>	<p>電源を入れる際にパスワード入力を求める機能を設定します。ON/OFF の切り替え、パスワード再設定が行えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パスワード:4桁の数字 ・デフォルトパスワード:「1234」 <p>⚠:設定したパスワードを忘れた場合、リセットすることはできません。パスワードは必ず控えて大切に管理してください。</p> <p>■パスワード入力手順 ※入力は60秒以内に入力してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 電源を ON にする 2. パスワード入力画面が表示される 3. 各桁の数字を「+」「-」ボタンで設定 4. M ボタンで次の桁へ移動 5. 4桁すべて入力後、正しい場合は自動で起動画面へ進む <p>⚠:3回連続で間違っている場合、電源が自動的にオフになります。再度利用する場合は、もう一度電源入れ入力をやり直してください。</p> <p>⚠:残り時間内に入力が完了しない場合も、電源が自動的にオフになります。</p>
<p>Assist levels (アシスト段階設定)</p>	<p>アシストモードの段階数を「3/5/9/U」で設定できます。 Uは6段階のアシストモードになります。</p> <p>⚠:アシストモードの段階数を上げてもアシストでの最高速度に変更ございません。</p>
<p>Wheel (タイヤサイズ設定)</p>	<p>⚠:本製品ではタイヤサイズは車両出荷時に正しく設定されており、お客様が変更することはできません。</p>
<p>Battery (バッテリー設定)</p>	<p>⚠:車両出荷時点で正しく設定されており、お客様が変更することはできません。</p>
<p>Battery Ind (バッテリー表示方式)</p>	<p>バッテリー残量の表示方法を選択できます。 Voltage(電圧表示)、Percent(パーセンテージ表示)、OFF(非表示)</p>
<p>Pow Ind (電流・パワー表示設定)</p>	<p>走行中に表示するパワー関連情報の種類を設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■Current(電流表示) モーターに流れているリアルタイム電流値(A)を表示します。アシストの強さや負荷のかかり具合を数値として確認できます。 ■Power(出力表示) モーターの出力(W)を表示します。加速時のパワーの出力状況を確認したい場合に適しています。 ■OFF(表示なし) パワーインジケーターの表示を無効にします。画面をシンプルに使いたい場合に選択します。
<p>Light sensor (ライトセンサー設定)</p>	<p>周囲の明るさを検知し、ディスプレイの明るさを自動調整する機能です。感度を以下の4段階から選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■OFF 自動調整を行いません。明るさは常に手動設定値のままです。 ■Low(低感度) 周囲の明るさが大きく変化したときのみ反応します。 ■Middle(中感度) 標準的な設定。適度な明るさ変化を検知して自動調整します。 ■High(高感度) わずかな明るさ変化でも反応します。トンネルの出入りや日陰での切り替えがスムーズになります。
<p>Back(戻る)</p>	<p>メインメニューへ戻ります。</p>

Information(製品情報)

以下の製品情報を確認できます。

Speed/Mileage	
項目	説明
AVG	平均速度(Km/h)
MAX	最高速度(Km/h)
Trip	区間走行距離(Km)
ODO	総走行距離(Km)
Range	現在のバッテリー残量から算出された推定航続距離(Km)
Cap-out	消費したバッテリー容量(mAh)
Calorie	消費カロリー(kcal) ※推定値

Product Infor	
項目	説明
Hardware Ver.	ディスプレイのハードウェアバージョン
Software Ver.	ディスプレイのソフトウェアバージョン(例:V7.5)
Date	ソフトウェアのビルド日(例:20250709)

Battery Infor	
項目	説明
Voltage	現在のバッテリー電圧(例:53.7V)
Current	電流値(A) ※---A の場合は取得不可状態
Cycle Times	充電サイクル回数
Capacity	現在のバッテリー容量(mAh)
Remaining Capacity	残容量(%)
Full Charge Capacity	満充電時の推定容量(mAh)
Design Capacity	バッテリー設計容量(mAh)
Temperature(温度)	バッテリー温度を表示します。 ※温度が取得できない場合は、---℃ と表示されます。
SOH(State of Health:健全性)	バッテリーの劣化度を示す指標です(%表示)
Absolute ChgSta(絶対充電状態)	バッテリーの充電状態を%で表示します。
Max Uncharge Times(最大放電回数)	バッテリーが経験した放電サイクルの上限値。
Last Uncharge Times(最新放電回数)	直近の放電サイクルの数値。
CorVolt-1	セル(バッテリーブロック)ごとの電圧を mV で表示します。
CorVolt-2	
CorVolt-3	

エラーコード一覧表

ディスプレイには、車両全体の故障を検出して通知するエラー表示機能が搭載されています。エラーコードは下記をご参照ください。

Er3	ブレーキ異常(ブレーキセンサー)	ブレーキの故障または、作動不良です。ブレーキ部に異物が挟まっていないか確認してください。異物など問題がない場合は、ブレーキ交換が必要です。
Er6	低電圧	バッテリー電圧が規定値を下回っています。電圧不足の状態では正常に動作できないため、充電してからご使用ください。
Er7	電圧異常(高電圧)	バッテリー電圧が規定値を超えています。安全保護のため動作が制限される場合があります。バッテリーの状態を確認し、必要に応じて交換してください。
Er8	ホールセンサー接続異常(コントローラー用)	コントローラー側のホールセンサー接続に異常が検出されました。配線の接触不良、断線、コネクタの緩み、またはセンサー側/コントローラー側の故障が原因として考えられます。配線およびコネクタの状態を確認し、改善しない場合は点検が必要です。
Er9	相線異常	モーターの相線(U・V・W)に異常が検出されました。3相動力線の緩み、断線、接触不良、またはコントローラーとの接続不良が原因として考えられます。配線およびコネクタの状態を確認し、改善しない場合は点検が必要です。
Er10	モーター過熱	モーターの温度が上昇し、過熱状態になったため保護モードに入りました。温度が適正範囲に戻るまで、出力が制限されます。
Er11	モーター温度センサー異常	電源をOFFにし、10秒後に再起動してください。改善しない場合はセンサーの故障や断線の可能性があります。
Er12	トルクセンサーの電流センサー異常	トルクセンサーの接続を確認してください。接触不良やコネクタの緩みがあると、正常に動作しません。
Er13	バッテリー温度異常(高温)	バッテリー温度が規定値を超えています。安全保護のため出力が制限されたり、走行が停止する場合があります。バッテリーが冷えるまで使用を中止し、温度が下がるのを待ってください。
Er14	コントローラー過熱	コントローラーの温度が上昇し、過熱状態になったため保護モードに入りました。温度が適正範囲まで下がるまで、出力が制限される場合があります。
Er15	コントローラー温度センサー異常	センサー配線の接触不良、断線、コネクタの緩み、またはセンサー自体の故障が原因として考えられます。接続状態を確認し、問題が解消しない場合は点検・修理が必要です。
Er21	速度信号異常(モーター速度)	モーターの速度信号に異常が検出されました。速度センサーまたはモーター内部の信号線に、断線・接触不良・コネクタの緩みなどが発生している可能性があります。接続状態を確認し、改善しない場合は点検が必要です。
Er22	BMS(バッテリー管理システム)通信異常	BMSとの通信が正常に行われていません。配線の接触不良、コネクタの緩み、断線、またはBMS本体の故障が原因として考えられます。バッテリー接続部および通信線の状態を確認してください。
Er25	トルクセンサー信号異常(トルク信号なし)	トルクセンサーからトルク信号が入力されていません。センサー配線の接触不良、断線、コネクタの緩み、またはトルクセンサー自体の故障が原因として考えられます。接続状態を確認し、改善しない場合は点検が必要です。
Er26	トルクセンサー速度信号異常	トルクセンサーに関連する速度信号に異常が検出されました。速度信号線の接触不良、断線、コネクタの緩み、またはセンサー・コントローラー側の故障が原因として考えられます。配線およびコネクタの状態を確認し、改善しない場合は点検が必要です。
Er27	電池の過電流	バッテリーに規定値を超える電流が流れています。過負荷やショート、配線の異常が原因として考えられます。安全のため、ただちに使用を中止し、配線およびバッテリーの状態を確認してください。
Er30	通信異常(コントローラー)	コントローラーとの通信が正常に行われていません。配線の接触不良、コネクタの緩み、断線、またはコントローラー内部の故障が原因として考えられます。接続状態を確認し、改善しない場合は点検が必要です。
Er33	ブレーキ検知回路異常	ブレーキ検知回路に異常が検出されました。ブレーキセンサーやその配線に、接触不良・断線・コネクタの緩みなどが発生している可能性があります。配線およびコネクタの状態を確認し、改善しない場合は点検が必要です。
Er35	15V電源検知異常	コントローラーが15V電源を正常に検知できていません。電源ラインの断線、接触不良、コネクタの緩み、またはコントローラー内部の電源回路の異常が原因として考えられます。配線および接続状態を確認し、改善しない場合は点検が必要です。
Er36	ライトスイッチ検知回路異常	ライトスイッチの検知回路に異常が検出されました。ライトスイッチや配線に、接触不良・断線・コネクタの緩みなどがある可能性があります。配線およびスイッチ周辺の接続状態を確認し、改善しない場合は点検が必要です。

操作方法

車両を組み立てると充電が完了すれば、走行準備は完了です。

充電方法は p.27 を参照してください。以下のシンプルなステップを踏んだら、すぐに出かけましょう。

1. メインフレームにまたがり、両足をしっかり地面につけて、乗車の準備をします。
2. 液晶ディスプレイの電源(⏻)ボタンを押して電源を入れます。
3. 液晶ディスプレイ(26)が点灯したら、すぐにコントローラーボタンから指を離します。
4. ディスプレイ(26)が点灯したら、+または-ボタンを押してアシストレベルを切り替えます。
アシストはレベル 1 から始まり、1 が最低、3 が最高です。レベル 0 ではアシストは作動しません。
5. 走行を始めるにはペダル(10)を踏み出すだけです。加速に慣れるまではアシストレベルを「1」に設定するのがおすすめで、慣れたら段階的に高いレベルに切り替えてみてください。
6. 走行後はコントローラーの電源(⏻)ボタンを長押しし、ディスプレイ(26)が消えたら指を離します。
7. バッテリーを取り外す場合はバッテリーキーを差し込み、キーを垂直位置で右に回して保持して、バッテリーを手前にスライドすると取り出せます。



バッテリー



バッテリー(18)は主要な動力源です。充電は同梱の充電器のみを使用し、バッテリーキーで取り外しを行ってください。

バッテリーの操作方法

1. バッテリー(18)を車体にしっかりと取り付けられていることを確認してください。
2. コントローラーボタンの(Ⓚ)ボタンを長押しすると、ディスプレイ(26)が点灯します。
3. バッテリーリリース:バッテリーキーを差し込み「ロック」からキーを垂直位置で右に回して保持して、バッテリーを手前にスライドすると取り出せます。



バッテリーを入れる

1. バッテリーを取り付け部にセットをする。
2. バッテリーを奥にカチッと音が出るまでスライドをする。

バッテリーを取り出す

1. ディスプレイ(26)の電源を切ります。
2. バッテリーキーを挿入し、垂直位置で右に回して保持します。
3. バッテリーを手前にスライドすると取り出せます。

バッテリーの充電

⚠ : 必ず付属の充電器を使用してバッテリーを充電してください。その他の充電器を使用すると、バッテリーが損傷し、保証が無効となる場合があります。充電の際は、付属充電器に記載された指示に従ってください。

本体から直接充電する



1. 車両本体から直接充電する際は、必ず電源をオフにしてください。
2. バッテリーを充電する際は、フレームの充電口(12)にチャージャーのプラグを差し込み、その後コンセントに接続してください。
3. 充電機のインジケーターが一瞬の間のみ緑色になり、その後赤色になることを確認してください。
4. インジケーターが緑色に変わったら、バッテリー(18)の充電は完了です。その後、必ず充電器のプラグをバッテリーから抜き、続けてコンセントからもプラグを抜いてください。

バッテリーを取り外して充電する



1. 前の事項の手順通りにバッテリー(18)をメインフレームから取り外し、充電プラグをバッテリーに直接差し込んだあと、コンセントに差し込んでください。
2. バッテリーを充電する際は、フレームの充電口(12)にチャージャーのプラグを差し込み、その後コンセントに接続してください
3. 充電機のインジケーターが一瞬の間のみ緑色になり、その後赤色になることを確認してください。
4. インジケーターが緑色に変わったら、バッテリー(18)の充電は完了です。その後、必ず充電器のプラグをバッテリーから抜き、続けてコンセントからもプラグを抜いてください。

バッテリーの充電時間

付属のバッテリーチャージャー(2.0A 充電器)の場合、およそ7.9時間で14.5Ah バッテリー(18)をフル充電(残量なしから満充電まで)できます。充電時間が長時間のため、頻繁に充電してください。

バッテリーを良好な状態に保ち、安全に使用するために知っておきたいポイント

バッテリーを良好な状態に保ち、安全に使用するために知っておきたいポイント

- ・ バッテリー(18)を指定された時間以上、バッテリーチャージャーに繋いだまま放置しないこと
- ・ 充電中にバッテリーから離れて放置しない
- ・ バッテリーが0℃以下の場合は充電しない。必ず本体が室温の状態での充電すること
- ・ 充電後、バッテリーを冷ましてから使用する
- ・ バッテリーが40℃を超える場合は、バッテリーを冷ましてから充電する
- ・ 使用するたびに充電することを避ける

! : 警告 バッテリー(22)の動作対象想定温度は15℃から45℃の間です。
極端な温度環境下(0℃以下または30℃以上)に長時間置かれる場合、または長期保管する場合は、バッテリーを取り外し、0℃から30℃の間で保管してください。本体温度が0℃以下または40℃以上のときは、バッテリーを充電しないでください。バッテリーに損傷を与える可能性があります。

バッテリーの取り扱い

- ・ ペダル(10)を漕ぐ時は、トルク過負荷によるモーターへの負担を最小限にするため、回転数を高めてください
- ・ 上り坂を走る時や、特に急な坂道では、できるだけ低いギアに設定し、走行してください
- ・ 長持ちさせるため、不必要なブレーキは避け、できるだけ惰性で走行しましょう。
- ・ 駐輪の際は、必ず電源をオフにしてください
- ・ 乗車中にバッテリー残量が少なくなったら、回転数を上げてモーターの負担を減らし、残量を維持しながら走行しましょう。帰宅後は速やかに充電してください。
- ・ すべてのケーブルが良好な状態で確実に接続されているか、定期的に点検してください。
- ・ ブレーキパッドを定期的に点検し、交換が必要か、またブレーキローターと擦れていないかを必ず確認してください。擦れはバッテリー残量の著しい低下を引き起こす可能性があります。

バッテリー交換について

- ・ バッテリーの交換は有料となります。
- ・ バッテリー交換をご希望の場合は、コールセンターへお問い合わせください。

使用済みバッテリーのリサイクルについて

リチウムイオンバッテリーは、リサイクル可能な貴重な資源です。日本国内でのバッテリーリサイクルについては、弊社コールセンターへお問い合わせください。

! : 警告 バッテリー(18)は分解や破損、燃焼、穴あけ、水中への浸水など、いかなる損傷も避けてください。
損傷すると保証が無効になります。バッテリーが破損しているように見える場合は、使用しないでください。破損や異音、異常発熱、液漏れがあれば使用を中止し、直射日光を避け風通しの良い場所で、0℃~30℃の範囲で保管してください。夏季の車内など、高温になる場所にバッテリーを放置しないでください。温度が急激に上昇する場所はバッテリーに悪影響を及ぼします。寒冷地での長期間の保管は、冷えすぎない場所で行ってください。低温環境での充電も避けてください。バッテリーが冷えすぎている場合は、室温に戻してから充電することを推奨します。

ギアを操作する



車両は、7 段変速ギアを装備しています。ギアチェンジは、手前のシフターレバーを押すとギアが下がり、反対に奥側を手前に押すとギアが上がります。1 プッシュごとに 1 段ずつギアチェンジされ、数字が上がるほど抵抗が小さくなります。ペダリングの快適さに合わせてギアを変えてください。スムーズなギアチェンジを実現するために、ギアチェンジの際は必ず後輪を正転させてください。

乗る前にチェックする項目

⚠ : 警告 車両を使用するたびに、以下の項目に従って必ず車体をチェックしてください。

- サドル(1)のボルトがしっかり締まっていることを確認してください。
- ハンドルバー(25)を固定しているボルトが確実に締まっていることを確認してください。
- キックスタンド、フロント/リアホイール、ブレーキローターなどのボルトや固定部が、すべて確実に締まっていることを確認してください。
- ブレーキとギアが正常に作動するかを必ず確認してください。
- バッテリー(18)が十分に充電されており、車両に正しく装着されていること、またコントローラーボタンの電源を長押ししてディスプレイ(26)の電源が入ることを確認してください。
- タイヤに損傷がないこと、リフレクターが正しく取り付けられていることを確認してください。

メンテナンス

チェーンの消耗

チェーン(9)や可動部の機能を保つため、乾いているときに潤滑油を補給してください。洗車後や雨天時は、乾いたチェーンに潤滑油を塗布しましょう。多用途潤滑剤は汚れを吸着し、チェーンの寿命を縮める恐れがあるため避けてください。

タイヤの空気圧(KPA)

空気圧:前輪210/後輪210

最低でも月2回、理想的には週1回の点検を行ってください。空気圧が低すぎると、次のような問題が発生する可能性があります

1. バッテリー1回の充電で走行できる距離が短くなります。
2. タイヤ(4)の磨耗が早まり、寿命が短くなります。
3. パンクのリスクが高まり、安全性が低下します。
4. 空気圧が不足したタイヤはオーバーステアを引き起こしやすく、ハンドル操作に悪影響を与えます。

油圧式ブレーキの調整

ディスクブレーキは前輪と後輪の両方にあらかじめ取り付けられており、車両の制動をコントロールします。

油圧式ディスクブレーキの調整のために、まずはキャリパー(15)の位置を決めます。キャリパーを固定している2本のボルトを緩めることで、キャリパーを左右に少しずつ調整することができます。


ハンドルバー(25)にあるブレーキレバー(28/32)をかけない状態で、可動パッド(外側)が擦れない範囲でキャリパーにできるだけ近づけるようにキャリパーを調整します。次に、キャリパーを固定するためにキャリパーのボルトを、両方が締まるまで交互に締めます。ホイールを回転させて、ローターのどこにもこすれないことを確認します。

次に、固定用パッド(内側)の位置を設定します。キャリパー(15)の裏側には、パッドを内側または外側に動かすための調整ナットがあります。これを時計回りに回すとキャリパーに向かって移動し、反時計回りに回すとキャリパーから離れていきます。重要なのは、固定された(内側の)パッドが、動いている(外側の)パッドの約2倍、キャリパーから離れていることです。

次に、ブレーキレバー(28/32)を握ってテストします。レバーがハンドルバー(25)に到達する前に、ブレーキが完全にかかるはずですが、レバーをハンドルバーまで引くことができる場合は、固定パッドをキャリパー(15)に近づけます。

ブレーキから異音がする場合

- ・キャリパー(15)の油や残留物を取り除く必要があります
- ・パッドはヤスリで削り、パッドホルダーにしっかりとめ込む必要があります。これにより、路面のほこりや油分による被膜が取り除かれます。
- ・パッドは摩耗していきます。パッドの厚さが0.5mmいかにになったら、新しいものに交換する時期となります。

 **警告:** ブレーキの安全な操作方法がわからない場合は、資格を持った整備士に確認してください。ブレーキが正しく作動していない場合は、車両に乗らずに、お近くの取扱店で、修理を依頼してください。ブレーキワイヤーとブレーキパッドの交換時期は総走行距離 **2,000km** 前後が目安です。急ブレーキや勢いよくブレーキレバー(28/32)を握るとブレーキワイヤーが破損する原因となります。ゆっくりと余裕を持ってブレーキをかけるように心がけてください。自転車のメンテナンスと整備は、すべて所有者の責任で行ってください。これを怠ると、保証が無効になったり、各車両や部品の損傷、事故の原因となることがあります。

仕様一覧

モデル	BABOON
アシストリミット	24km/h
モーター	500W
バッテリー	48V14.5Ah
バッテリーチャージャー	54.6V 2.0A 100V~240V
航続距離	最高60~80km(ペダルアシスト時)
寸法(展開図)	L1800mm×W:700mm×H:1140mm
ギア	Shimano 製 7速
ブレーキ	油圧式ディスクブレーキ
フレーム	アルミニウム
フォーク	ショックアブソーバー
フロントライト	LED
リアライト	リフレクター
ディスプレイ	液晶ディスプレイ
モーターユニット	防水仕様
重さ	39kg

トラブルシューティング(故障かなと思ったら?)

<p>電源が入らない、または充電機 器が接続されているときだけ 電源が入る</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. バッテリーキーが「オン」の位置になっていることを確認してください 2. 主電源を切った状態で充電器のインジケーターが緑色に点灯するまで、バッテリーを8時間以上かけてフル充電してください。p.27「バッテリーの充電」を参照してください 3. ケーブル接続状態をすべて点検し、ケーブルに損傷や汚れがないかを確認してください 4. 上記を試しても解決しない場合は、MOBIPARK までご相談ください
<p>バッテリーに接続されていても 充電器のインジケーターが緑色 のまま、またはバッテリーがフ ル充電できない</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 充電器をバッテリーに接続した後に、コンセントに差し込んでください 2. 複数のバッテリーを充電する場合は、それぞれ充電が完了するたびに一度コンセントを抜いてください 3. 車両からバッテリーを取り出してから充電してください 4. 上記を試しても解決しない場合は、MOBIPARK までご相談ください
<p>電源は入るが、ペダルアシスト が機能しない</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. アシストパワーレベルが「1」以上の値であることを確認してください。レベル「0」ではアシストパワーは作動しません。 2. 再起動してください。 3. アシストレベル設定をディスプレイで確認してください 4. ケーブル接続状態をすべて点検し、ケーブルに損傷や汚れがないかを確認してください 5. 上記を試しても解決しない場合は、MOBIPARK まで、上手くいかなかった内容を添えてご連絡ください。
<p>ステアリングがおかしい ペダルが漕ぎづらい</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. タイヤに記載されている指定の空気圧までしっかり空気を入れてください。 2. パッドの摩耗状態を確認し、タイヤを持ち上げて空転させ、ブレーキの引きずりや著しい摩耗がないか確認してください。 3. ご自身で解決できない場合や異常がある場合は、MOBIPARK 販売店に持ち込み、専門スタッフに原因を調べてもらうことをおすすめします。
<p>バッテリーがフル充電できない</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新しいバッテリーの場合、充電器のインジケーターが緑色になってから、最大8時間まで充電してください。 2. 本マニュアル内のバッテリー章を参照してください。 3. 上記を試しても解決しない場合は、MOBIPARK までご相談ください。
<p>ブレーキが軽すぎる、または異 音がする。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本マニュアル内「メンテナンス」のブレーキ章を参照してください。 2. 芯ずれや摩耗がないか、ブレーキの調整を確認してください 3. ブレーキローターを掃除し、オイルやグリースなどの残留物がないか確認してください。 4. 必要に応じて、MOBIPARK 販売店に持ち込み、ブレーキを点検してもらってください。
<p>ギアが正しく切り替わらない</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. リアディレイラーハンガーが正しい位置にあるか確認してください(特に転倒や運搬、配送など、ディレイラーハンガー側に倒れた場合)。 2. シフターケーブルのテンションが正しく調整されているか確認してください。詳細はマニュアル p.29「ギアを操作する」を参照。 3. 必要に応じ、MOBIPARK 販売店に持ち込み、ギアやシフトの調整点検を行ってください。

定期点検チェックシート

自転車の各部分は、使用、経年により、消耗、劣化いたします。

自転車を安全かつ良好な状態で使用するためには、乗車前点検や日常点検を必ず行い、加えて販売店にて定期点検を受けてください。

			2カ月点検	6カ月点検	1年点検	2年点検	3年点検	4年点検	5年点検
ホイール関連	タイヤ	空気圧 キズ 摩耗							
	リム	亀裂 損傷 振れ							
	スポーク	亀裂 損傷 緩み							
	ハブ クイック	亀裂 損傷 緩み がた							
ハンドル サドル フレーム関連	ハンドルバー ステム	亀裂 損傷 緩み がた							
	サドル シートポスト	亀裂 損傷 緩み がた							
	フレーム フォーク	亀裂 損傷 緩み がた							
	サスペンション フォーク	亀裂 損傷 緩み がた							
駆動系	ギア クランク	振れ 固定 がた							
	チェーン フリーホイール	異音 注油の確認 チェーンの伸 摩耗							
	変速機 ワイヤー	作動確認 ワイヤーの錆び ほつれ							
	ペダル	亀裂 損傷 緩み がた							
制動関係	ブレーキレバー	緩み がた 遊び							
	ブレーキシュー	亀裂 損傷 緩み がた							
	ワイヤー	作動確認 ほつれ							
アクセサリ	ベル ライト リフレクター	作動確認 損傷 緩み がた							

保証

◇保証について

株式会社 MOBI PARK は、損傷や不具合などが保証対象かどうかを、自社の判断で決定いたします。

◇保証条件

- ・本保証は適用される強行法規によって別段の決定がなされない限り車両の現所有者のみに適用されます。
- ・保証請求を行う場合、保証請求が処理されるためには、自転車の納品後に2週間以内にオーナー登録を完了させる必要があります。また登録された名義のご本人の保証請求が可能となります。※期間確認
- ・保証請求は、問題発生日から2カ月以内に実施する必要があります。
- ・本保証は、交換パーツそれ自体のみを保証対象とし、配送料や部品装着の費用を負担するものではありません。
- ・自転車販売店による保証サービスや部品交換は、必ず事前に弊社の承認を受ける必要があり、例外は認めません。また、弊社はすべての保証請求を却下する権利を有します。

◇保証の対象外

製品の定期点検や、通常のサービス・部品交換の必要性確認は、お客様の自己責任にて行っていただきます。

- ・取扱説明書の指示に従わなかった場合や、改造・不適切な組立によって生じた損傷や欠陥。
- ・不可抗力や事故、乱用・誤使用・放置・過度な使用、雨ざらし保管、商業目的での使用による損傷。
- ・車両の部品は、通常使用による摩耗や劣化の対象(例:タイヤ、インナーチューブ、ブレーキパッド、チェーンなど)
- ・不具合発生後に車両を使用したり、自主的に修理を試みたため、当該箇所の状況確認が困難になった車体。
- ・車両に関する専門知識を持つ修理店以外で行った修理によるパーツの損傷。
- ・車両やその部品に対する無許可の改造(カスタム)。
- ・国内基準に適合しない仕様や設定の車体、またその使用によって生じた損傷。
- ・ウェブサイト掲載画像と実際の製品との色味や質感の違い。
- ・機能や使用に影響を与えない音や振動などの感覚的な現象。
- ・製造や点検中に生じる微細な傷、また使用後に発見された傷や塗装の不具合。
- ・輸送中に生じる外観の微細な傷や、雨による軽い濡れ。
- ・個人輸入品、クラウドファンディング経由の並行輸入品、中古品、セカンドオーナー品。
- ・経年変化によるもの(塗装やメッキの劣化、プラスチック部の色あせなど)。
- ・点検・清掃・整備にかかる費用
- ・直営店以外で行った修理にかかる費用。
- ・修理に伴う電話代、運送代、レンタカー代などの付随費用。
- ・休業補償や、車両が使用できなかったことによる損害。

◆14 日間限定 初期不良保証 ※期間確認

車両受取後 14 日以内に、重大な欠陥(自転車の正常な運転に著しい影響を与えるもの)が発生した場合、弊社は自社の判断で欠陥パーツの修理・交換、または修理不能な場合は車両全体の返品・交換を行います。欠陥かどうかの判断も弊社が行い、該当する場合の修理や交換の費用は弊社が負担します。

無償交換や返品・返金を受ける場合は、下記内容にて対応させていただきます。

※配送業者による集荷配送で対応させていただきますが、初期不良ではないと判断された場合、費用はお客様負担です。

※大型商品のため対応に時間がかかる場合があります。

※交換商品が完売の場合は返金対応となります。

※納車後は必ず製品の状態を確認してください。

◆1 年間限定 部品保証

部品保証の対象は下記部品が対象となります。

ディスプレイ、モーター、バッテリー、充電器、コンピューター

上記部品は、車両受取日から1年間、材料や製造上の欠陥がないことを保証します。ただし通常の損耗は保証対象外です。

通常走行や自然な摩耗で損傷する可能性があるため、以下の部品は保証対象外です。

ブレーキ、タイヤ、フォーク、リアサスペンション、ステム、ハンドルバー、グリップ、シートポスト、サドル、ボトムブラケット、クランクセット、ペダル、リム、スポーク、ホイールハブ、フリーホイール、スプロケット、ディレイラー、シフター、ワイヤリングハーネス、キックスタンド、リフレクターや金具類など。また、その他の消耗品やアクセサリーパーツ、オプションパーツも保証対象外となります。

上記の1年間限定部品保証は交換パーツそのもののみが対象で、配送料や取付費用は含まれません。修理や不具合があると考えられる場合は、カスタマーサービスへお問い合わせいただくか、直営店舗に持ち込み、保証の適用判断とサポートを受けてください。

◆1 年間限定バッテリー保証

リチウムイオンバッテリーは購入日から 1 年間、材料や製造上の欠陥がないことを保証します。ただし使用状況を把握できないため、寿命や充電容量の低下は保証対象外です。

◆保証の適用地域・適用車種

本保証は日本国内で販売・使用される車体のみを対象とします。海外へ持ち出された場合、その時点で保証は無効となります。

その他、ご不明点やご意見がございましたら、お気軽にお問い合わせください。

MAIL:support@mobi-park.com

TEL :03-6264-5995 ※カスタマーセンターの番号に変更するか確認